

4. 4 歴史的・文化的環境

4. 4. 1 文化財

対象事業実施区域近傍の文化財及び埋蔵文化財の状況は、指定文化財は表4. 4－1及び図4. 4－1、埋蔵文化財は表4. 4－2及び図4. 4－2に示すとおりである。

文化財は、国指定史跡の日根荘遺跡や国宝建造物の慈眼院多宝塔、国指定重要文化財の慈眼院金堂等、日根荘由来の文化財が多く存在している。

埋蔵文化財は、対象事業実施区域内には梨谷遺跡、近傍には向井山遺跡、母山近世墓地、母山遺跡、西ノ上遺跡等が存在している。

表4. 4－1 対象事業実施区域近傍における指定文化財

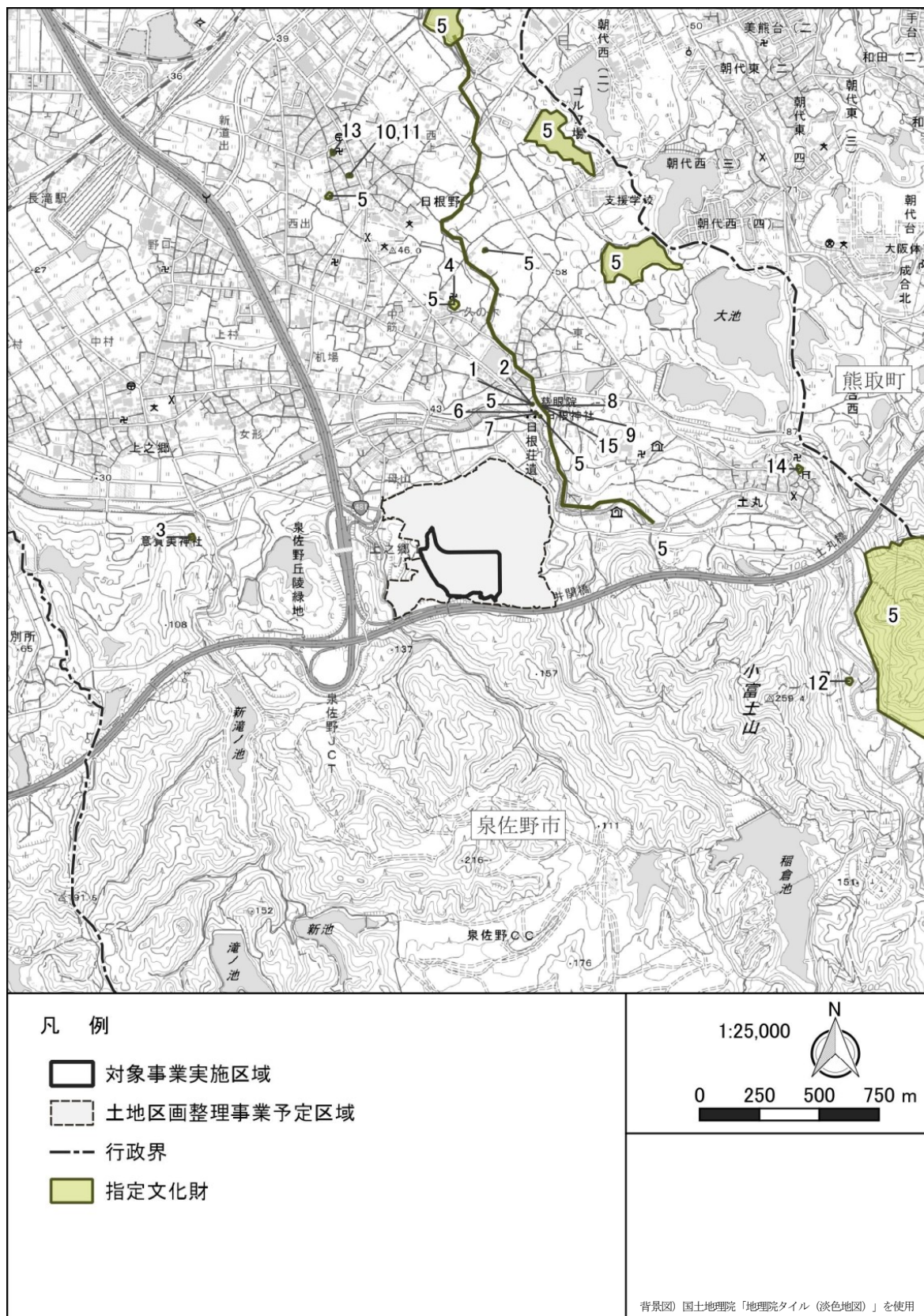
図中 番号 (注)	指定	分野	種別	名称	所在地	指定年月日
1	国	国宝	建造物	慈眼院多宝塔	泉佐野市日根野	M36. 04. 15 S28. 11. 14
2		重文	建造物	慈眼院金堂	泉佐野市日根野	M36. 4. 15
3		重文	建造物	意賀美神社本殿	泉佐野市上之郷	T13. 4. 15
4		重文	建造物	総福寺鎮守天満宮本殿	泉佐野市日根野	S53. 5. 31
5		史跡	記念物	日根荘遺跡	泉佐野市日根野、 土丸、大木	H10. 12. 8 H17. 7. 14 H25. 10. 17
6	府	府有形	建造物	日根神社本殿	泉佐野市日根野	S47. 3. 31
7		府有形	建造物	日根神社末社比売神社本殿	泉佐野市日根野	S47. 3. 31
8		府有形	美術工芸品	慈眼院木造大日如来坐像	泉佐野市日根野	S51. 3. 31
9		府天記	記念物	慈眼院の姥桜	泉佐野市日根野	S45. 2. 20
10		府天記	記念物	北庄司邸のくす	泉佐野市日根野	S48. 3. 30
11		府天記	記念物	北庄司邸のいすのき	泉佐野市日根野	S48. 3. 30
12	市	市有形	建造物	旧向井家住宅	泉佐野市土丸	H5. 12. 2
13		市有形	美術工芸品	絹本着色仏涅槃図	泉佐野市市場西	H7. 4. 4
14		市有形	美術工芸品	木造阿弥陀如来坐像	泉佐野市土丸	H8. 4. 4
15		市有民	民俗	慈眼院こけら経	泉佐野市日根野	H8. 4. 4

注) 表中の番号は図4. 4－1に対応している。

出典) 「大阪府の文化財」(大阪府ホームページ <https://www.pref.osaka.lg.jp/bunkazaihogo/bunkazai/> 令和5年11月閲覧)

「大阪府地図情報提供システム」(大阪府ホームページ <https://www.pref.osaka.lg.jp/jigyokanri/cals/tizu.html> 令和5年11月閲覧)

「泉佐野市地図情報システム」(泉佐野市ホームページ <https://www.city.izumisano.lg.jp/kakuka/toshi/toshi/menu/toshikeikaku.html> 令和5年11月閲覧)より作成



備考) 図中の数字は表4. 4-1の図中番号に対応している。

図4. 4-1 対象事業実施区域周辺における指定文化財

表4. 4-2 対象事業実施区域近傍における埋蔵文化財

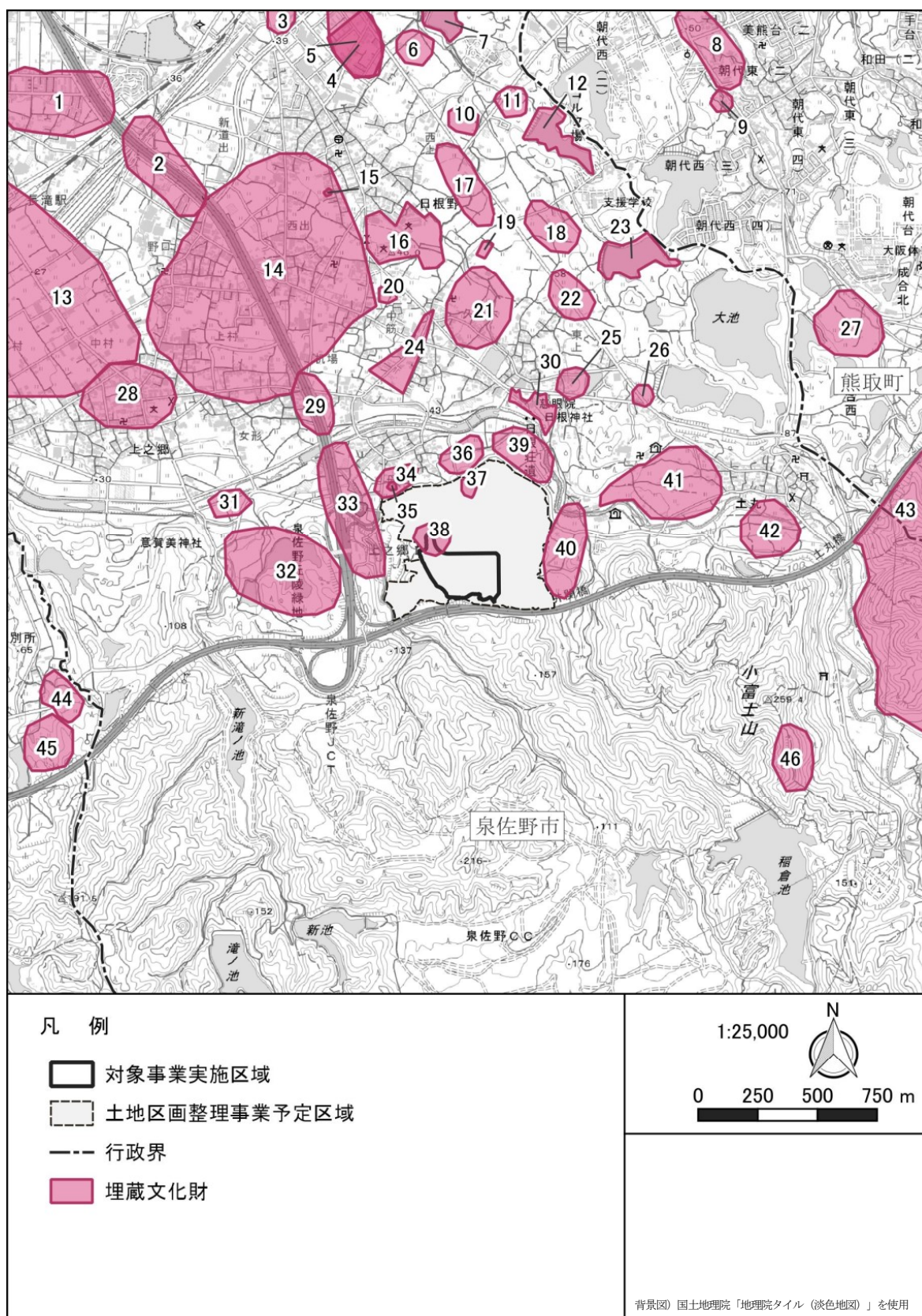
図中 番号 注)	名称	種類	図中 番号 注)	名称	種類
1	植田池遺跡	集落跡	24	久ノ木遺跡	集落跡
2	郷之芝遺跡	散布地	25	八王子遺跡	散布地
3	白水池遺跡	その他	26	屯田遺跡	散布地
4	小塚遺跡	生産遺跡	27	池ノ谷遺跡	散布地
5	中嶋遺跡	生産遺跡	28	上之郷遺跡	集落跡
6	十二谷遺跡	集落跡・散布地	29	机場遺跡	散布地・集落跡
7	日根荘遺跡 十二谷池	その他(荘園遺跡)	30	日根荘遺跡日根神社・慈眼院	社寺跡
8	朝代北遺跡	散布地	31	向井代遺跡	集落跡
9	山ノ下城跡	城館跡	32	向井池遺跡	散布地
10	丁田遺跡	散布地	33	棚原遺跡	集落跡
11	新池尻遺跡	散布地	34	母山遺跡	その他
12	日根荘遺跡八重治池	その他	35	母山近世墓地	その他の墓
13	三軒屋遺跡	集落跡・散布地	36	川原遺跡	散布地
14	日根野遺跡	集落跡	37	向井山遺跡	散布地
15	日根荘遺跡新道出牛神	集落跡・その他墓	38	梨谷遺跡	散布地
16	宮ノ前遺跡	集落跡・その他墓	39	西ノ上遺跡	散布地
17	大坪遺跡	散布地	40	笹ノ山遺跡	散布地
18	市堂遺跡	散布地	41	土丸遺跡	散布地
19	日根荘遺跡野々宮(丹生神社)跡	社寺跡	42	土丸南遺跡	散布地
20	垣外遺跡	散布地	43	土丸・雨山城跡	城館跡
21	野々宮遺跡	散布地	44	別所北遺跡	散布地
22	北之前遺跡	散布地	45	別所遺跡	散布地
23	日根荘遺跡尼津池	その他	46	稲倉池北方遺跡	散布地

注) 表中の番号は図4. 4-2に対応している。

出典) 「大阪府の文化財」(大阪府ホームページ <https://www.pref.osaka.lg.jp/bunkazaihogo/bunkazai/> 令和5年11月閲覧)

「大阪府地図情報提供システム」(大阪府ホームページ <https://www.pref.osaka.lg.jp/jigyokanri/cals/tizu.html> 令和5年11月閲覧)

「泉佐野市地図情報システム」(泉佐野市ホームページ <https://www.city.izumisano.lg.jp/kakuka/toshi/toshi/menu/toshikeikaku.html> 令和5年11月閲覧)より作成



備考) 図中の数字は表4. 4-2の図中番号に対応している。

図4. 4-2 対象事業実施区域近傍における埋蔵文化財

4. 4. 2 歴史的・文化的景観

対象事業実施区域周辺における歴史的・文化的景観の状況は、表4. 4－3及び図4. 4－3に示すとおりである。

重要文化的景観として、鎌倉時代から戦国時代にかけて、九条家の領地である「日根荘」が存在し、現在においても関係する文化財となる16の史跡、当時から受け継がれる大木の農村景観である「日根荘大木の農村景観」が選定されている。

表4. 4－3 歴史的・文化的景観資源の状況

資源名	市町	分類
日根荘大木の農村景観	泉佐野市	重要文化的景観

出典) 「文化的景観「日根荘大木の農村景観」について」(泉佐野市ホームページ <https://www.city.izumisano.lg.jp/kakuka/kyoiku/bunkazaihogo/menu/keikan/1371687858961.html> 令和5年11月閲覧) より作成



図4. 4-3 歴史的・文化的景観

4. 5 気候変動適応等

4. 5. 1 洪水・内水氾濫

対象事業実施区域周辺における浸水想定区域の指定状況は図4. 5-1に示すとおりであり、対象事業実施区域は浸水想定区域に指定されていない。

また、「気候変動適応情報プラットフォーム（A-PLAT）」（以下「A-PLAT」という。）において示されている、基準年と将来（21世紀末頃）の最大日降水量の予測結果は図4. 5-2に示すとおりである。対象事業実施区域周辺の将来の最大日降水量は、基準年より20mmから40mm程度多くなると予測されている。なお、予測結果中のSSPシナリオについて、概要を図4. 5-3に示す。

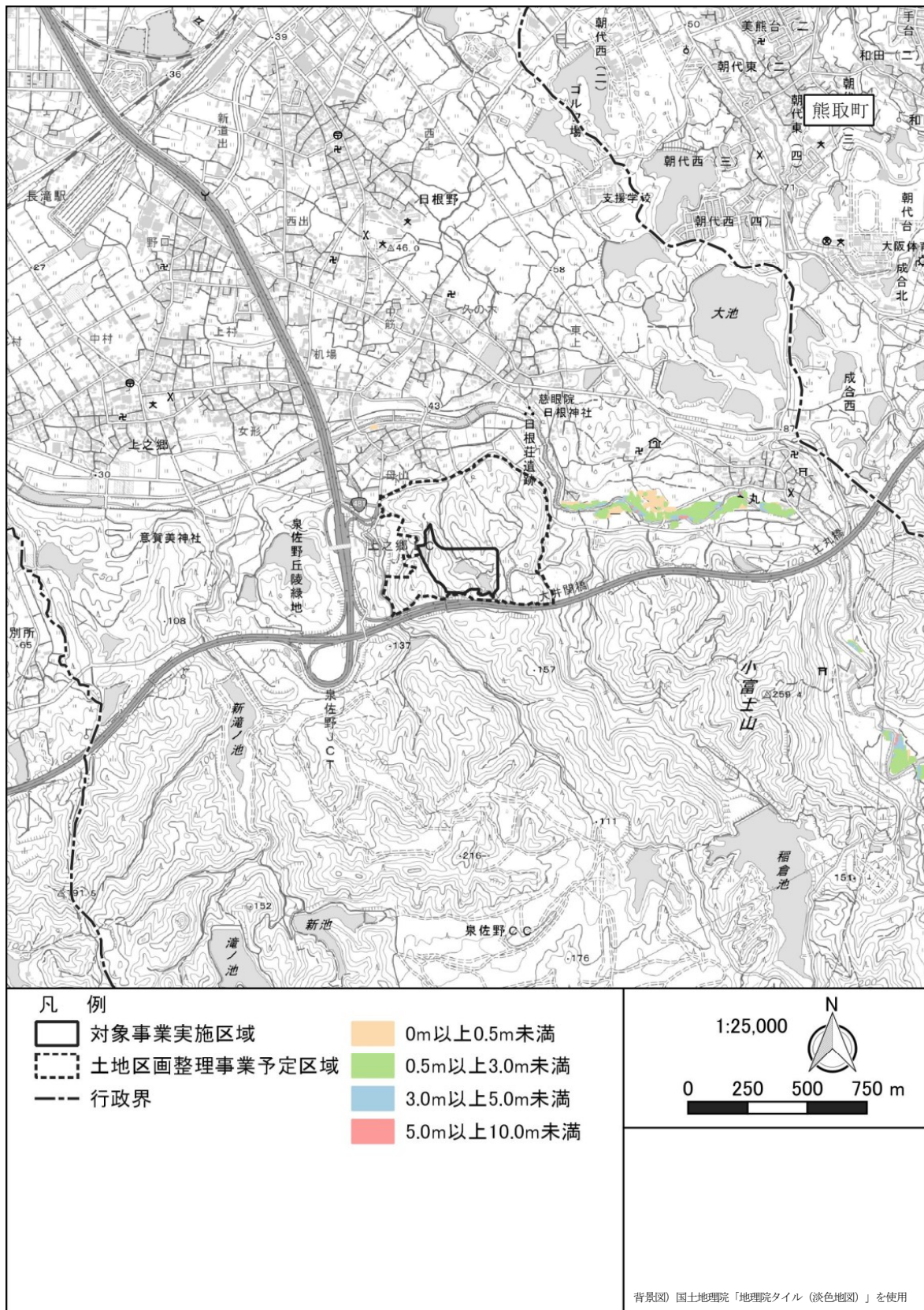
なお、A-PLATには、表4. 5-1に示す複数の気候モデルによる予測結果が示されているが、それらのうち、開発機関が日本の研究機関である（MIROC6、MRI-ESM2.0）における結果を示している。

表4. 5-1 A-PLATにて使用されている代表的な気候モデルの概要

気候モデル	開発機関	特徴
MIROC MIROC6★	東京大学/国立研究開発法人国立環境研究所 /国立研究開発法人海洋研究開発機構	日本の研究機関が開発した気候モデルであり、当該モデルを利用して日本を含むアジアの気候やモンスーン、梅雨前線等の再現性や将来変化の研究が実施されている。
MRI-CGCM3.0 MRI-ESM2.0★	気象庁気象研究所	
GFDL CM3	【アメリカ】NOAA 地球物理流体力学研究所	
HadGEM2-ES	【イギリス】気象庁ハドレーセンター	日本周辺の年平均気温や降水量等の変化の傾向を確認し、そのばらつきの幅を捉えられるように選ばれた気候モデル。
IPSL-CM6A-LR★	【フランス】ピエール・シモン・ラプラス研究所	
ACCESS-CM2★	【オーストラリア】ARC 気候システム科学研究センター	
MPI-ESM1-2-HR★	【ドイツ】マックス・プランク気象研究所	

出典) 「気候変動適応情報プラットフォーム（A-PLAT）」(<https://adaptation-platform.nies.go.jp/> 令和6年6月閲覧)をもとに作成

備考) ★は、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第6次報告書において採用された気候モデルである。



出典：「国土数値情報（洪水浸水想定区域データ）」（国土交通省）
https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-A31-v4_0.html（令和5年12月19日取得）

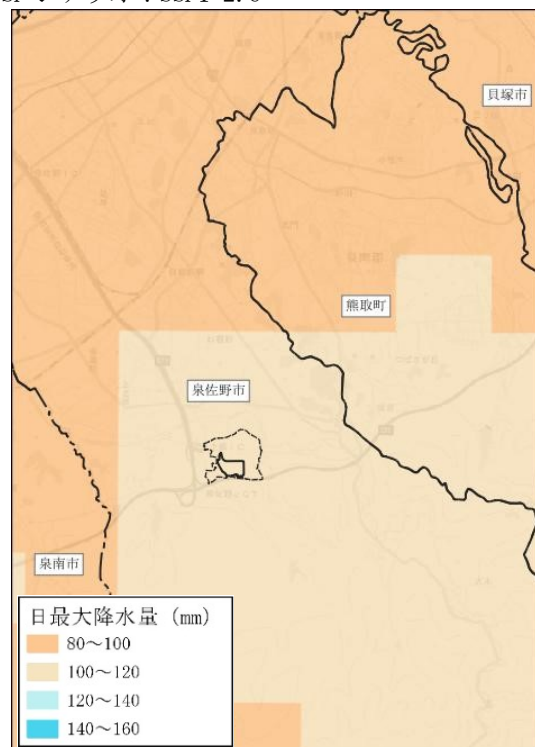
図4. 5-1 対象事業実施区域周辺における浸水想定区域の指定状況

基準期間(1990-2006 年)



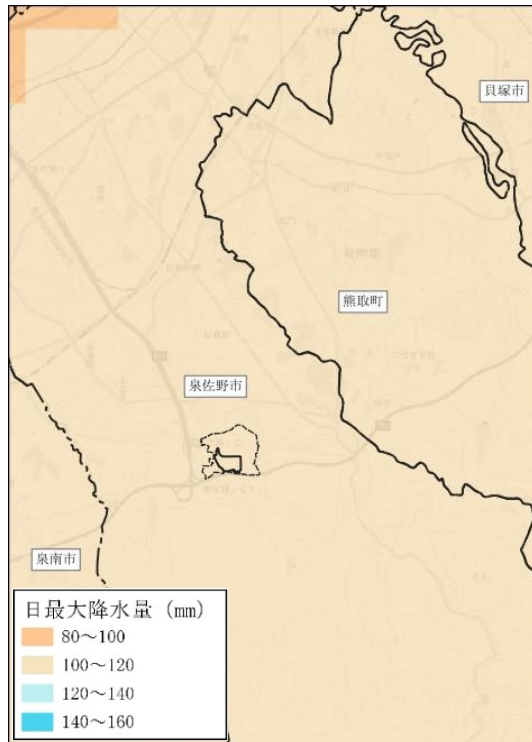
21 世紀末頃(2081-2100 年)

SSP シナリオ : SSP1-2.6



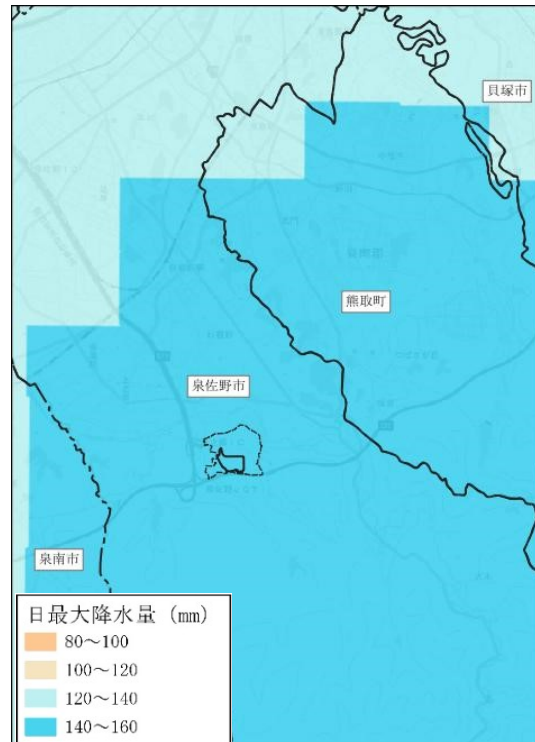
21 世紀末頃(2081-2100 年)

SSP シナリオ : SSP2-4.5



21 世紀末頃(2081-2100 年)

SSP シナリオ : SSP5-8.5



出典：CMIP6 をベースにした CDFM 手法による日本域バイアス補正気候シナリオデータ Ver.1 (国立環境研究所 doi:10.17595/20210501.001.) (令和 6 年 5 月 29 日取得)

備考：SSP シナリオとは、社会経済の多様な発展の可能性を、緩和と適応の困難度により図 4. 5-3 に示す 5 つに区分したものである。使用データには、SSP1-2.6、SSP2-4.5、SSP5-8.5 の 3 区分が示されている。

図 4. 5-2 (1) 基準年と将来 (21 世紀末頃) の日最大降水量の予測結果
(気候モデル：MIROC6)

基準期間(1990-2006 年)



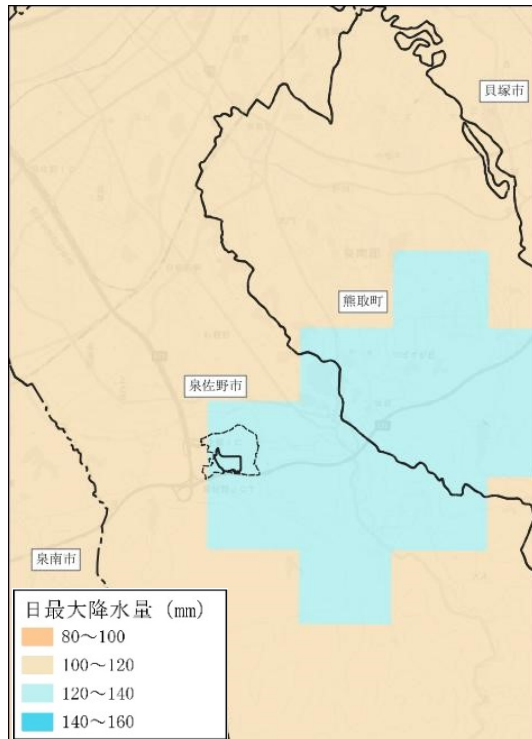
21 世紀末頃(2081-2100 年)

SSP シナリオ : SSP1-2.6



21 世紀末頃(2081-2100 年)

SSP シナリオ : SSP2-4.5



21 世紀末頃(2081-2100 年)

SSP シナリオ : SSP5-8.5



出典：CMIP6 をベースにした CDFDM 手法による日本域バイアス補正気候シナリオデータ Ver.1 (国立環境研究所 doi:10.17595/20210501.001.) (令和6年5月29日取得)

備考：SSP シナリオとは、社会経済の多様な発展の可能性を、緩和と適応の困難度により図 4. 5-3 に示す5つに区分したものである。使用データには、SSP1-2.6、SSP2-4.5、SSP5-8.5 の3区分が示されている。

図 4. 5-2 (2) 基準年と将来 (21 世紀末頃) の日最大降水量の予測結果

(気候モデル : MRI-ESM2.0)

IPCC 第6次評価報告書における SSPシナリオとは

シナリオ		シナリオの概要	近い RCPシナリオ (*) IPCCAR5 で使われた 代表適度経路シナリオ
	SSP1-1.9	持続可能な発展の下で 気温上昇を 1.5℃以下におさえるシナリオ 21 世紀末までの気温上昇(工業化前基準)を 1.5℃以下に抑える政策を導入 21 世紀半ばに CO ₂ 排出正味ゼロの見込み	該当なし
	SSP1-2.6	持続可能な発展の下で 気温上昇を 2℃未満におさえるシナリオ 21 世紀末までの気温上昇(工業化前基準)を 2℃未満に抑える政策を導入 21 世紀後半に CO ₂ 排出正味ゼロの見込み	RCP 2.6
	SSP2-4.5	中道的な発展の下で気候政策を導入するシナリオ 2030 年までの各国の国別削減目標(NDC)を 集計した排出量上限にほぼ位置する	RCP 4.5 (2050 年までは RCP6.0 にも近い)
	SSP3-7.0	地域対立的な発展の下で 気候政策を導入しないシナリオ	RCP 6.0 と RCP 8.5 の間
	SSP5-8.5	化石燃料依存型の発展の下で 気候政策を導入しない最大排出量シナリオ	RCP 8.5

出典: IPCC第6次評価報告書および環境省資料をもとにJCCCA作成

出典: 「全国地球温暖化防止センター」(<https://www.jccca.org/>) (令和6年4月23日取得)

図 4. 5-3 SSPシナリオの概要

4. 5. 2 高潮・高波

対象事業実施区域周辺は海岸から離れているため、高潮・高波の被害を受ける区域ではない。

4. 5. 3 土砂災害

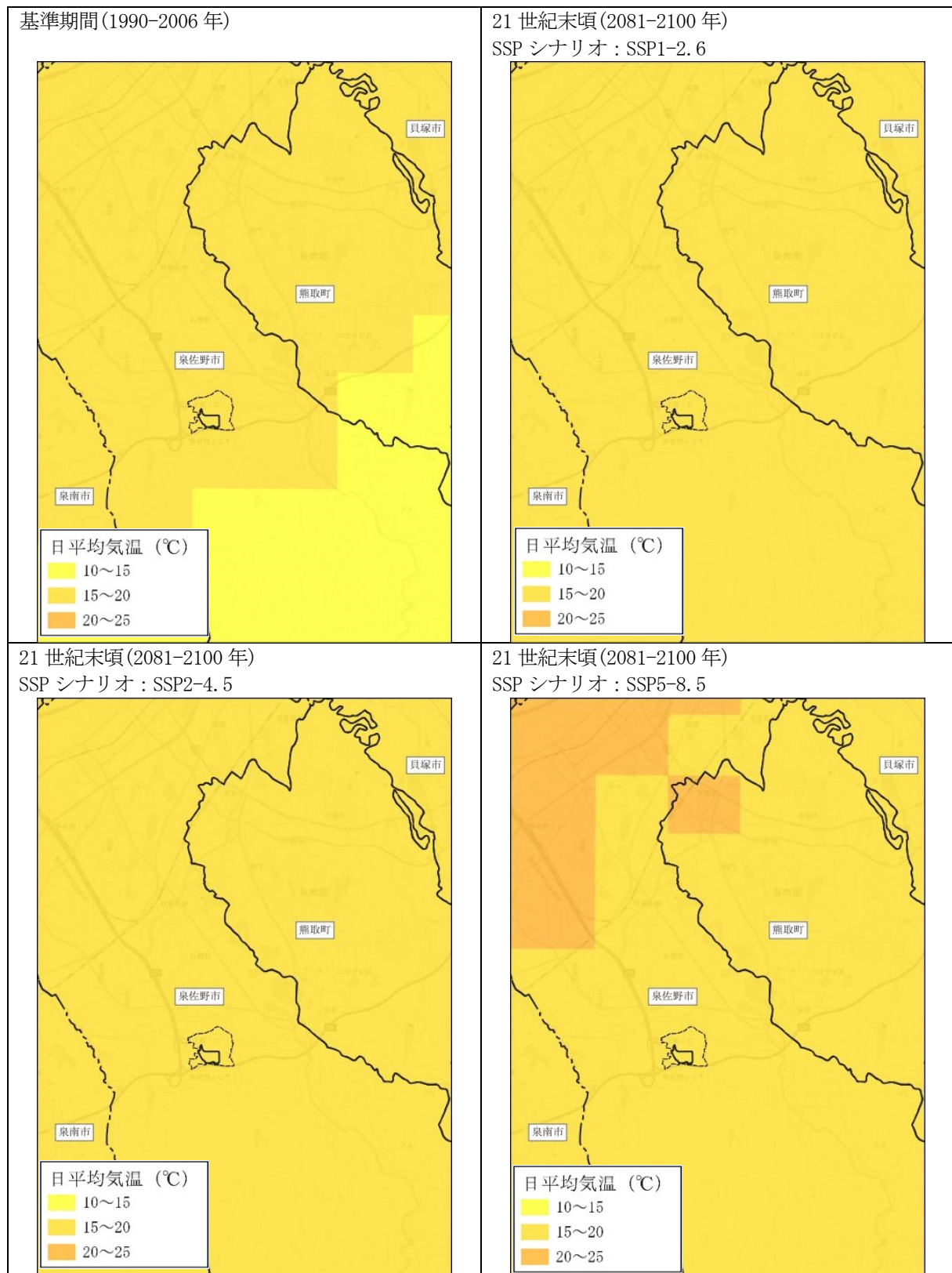
土砂災害については「4. 地域の概況 4. 1 社会的状況 4. 1. 7 関係法令・条例等 (9) 自然環境保全上の規制地域等」で述べた通り、対象事業実施区域周辺には土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊・土石流）、土砂災害特別警戒区域（急傾斜地の崩壊・土石流）が指定されている。

また、「4. 地域の概況 4. 5 気候変動適応等 4. 5. 1 洪水・内水氾濫」で述べた通り、A－P L A Tに示されている気候モデルによると、対象事業実施区域周辺の将来の最大日降水量は、基準年より20mmから40mm程度多くなると予測されている。

4. 5. 4 暑熱

大阪府は府域の現状の熱負荷量9,800 テラジュール／日を2025年までに6,900 テラジュール／日に削減することを目指し、大阪府クールスポットモデル拠点事業等各種対策を実施している。また平成27年3月には「おおさかヒートアイランド対策推進計画」を策定し、住宅地域における夏の夜間の気温を下げることにより、地球温暖化の影響を除外した熱帯夜日数を2000年より3割減らす、屋外空間における既存のクールスポットの活用や創出をすることにより、屋外空間における夏の昼間の暑熱環境を改善することを目指し様々な取組みを推進している。また、大阪府では、前計画である「大阪府ヒートアイランド対策推進計画」で設定した優先対策地域を中心に熱環境マップを作成しているが、協議市町に関係市町は含まれていない。

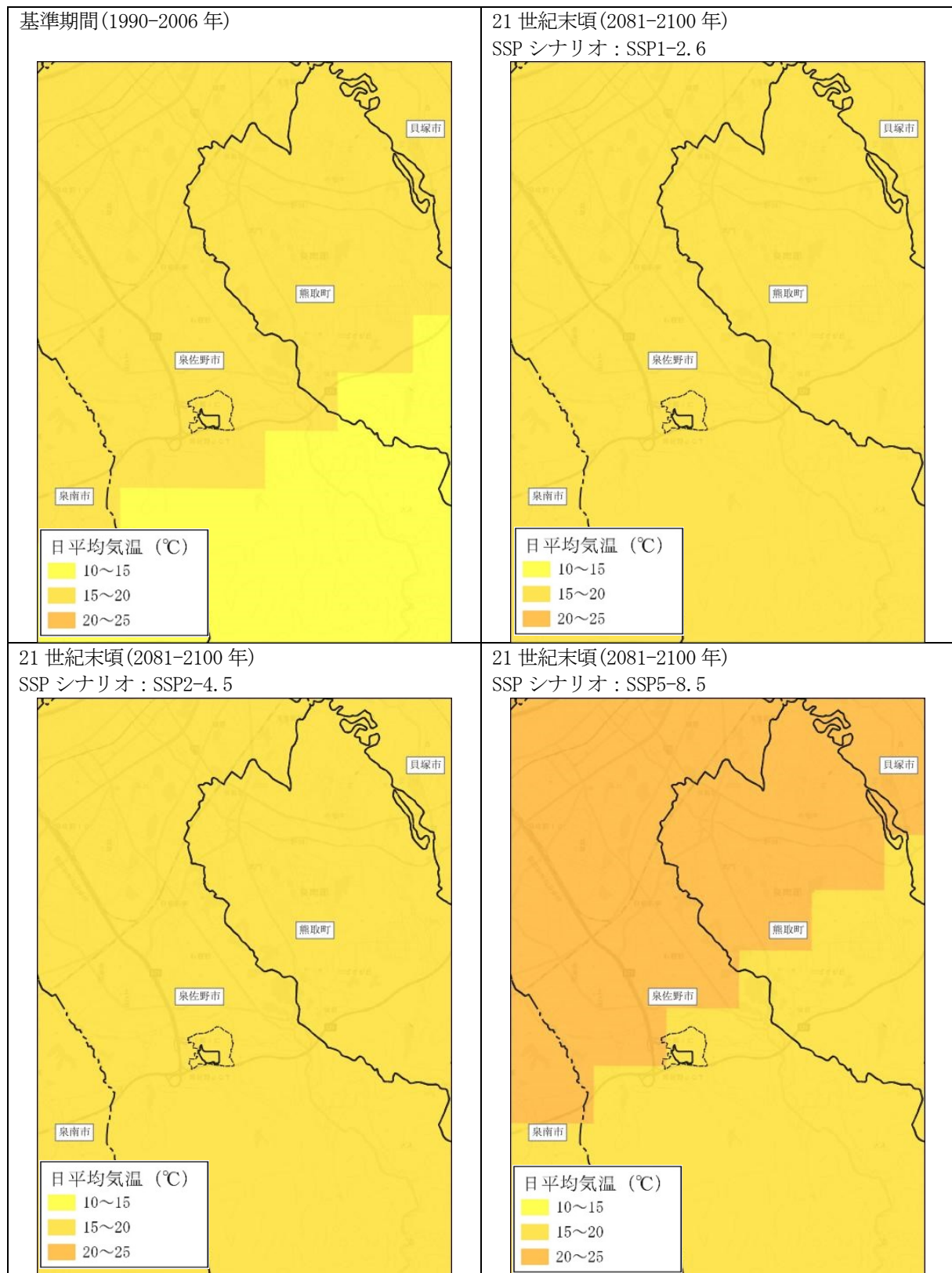
また、A－P L A Tに示されている気候モデルによる、基準年と将来（21世紀末頃）の日平均気温の予測結果は図 4. 5－4に示すとおりである。対象事業実施区域周辺の将来の日平均気温は、基準年より上昇すると予測されている。



出典：CMIP6 をベースにした CDFDM 手法による日本域バイアス補正気候シナリオデータ Ver.1（国立環境研究所 doi:10.17595/20210501.001.）（令和 6 年 5 月 29 日取得）

備考：SSP シナリオとは、社会経済の多様な発展の可能性を、緩和と適応の困難度により、図 4. 5-3 に示す 5 つに区分したものである。使用データには、SSP1-2.6、SSP2-4.5、SSP5-8.5 の 3 区分が示されている。

図 4. 5-4 (1) 基準年と将来 (21 世紀末頃) の日平均気温の予測結果
(気候モデル：MIROC6)



出典：CMIP6 をベースにした CDFDM 手法による日本域バイアス補正気候シナリオデータ Ver.1（国立環境研究所 doi:10.17595/20210501.001.）（令和6年5月29日取得）

備考：SSP シナリオとは、社会経済の多様な発展の可能性を、緩和と適応の困難度により、図 4. 5-3 に示す5つに区分したものである。使用データには、SSP1-2.6、SSP2-4.5、SSP5-8.5 の3区分が示されている。

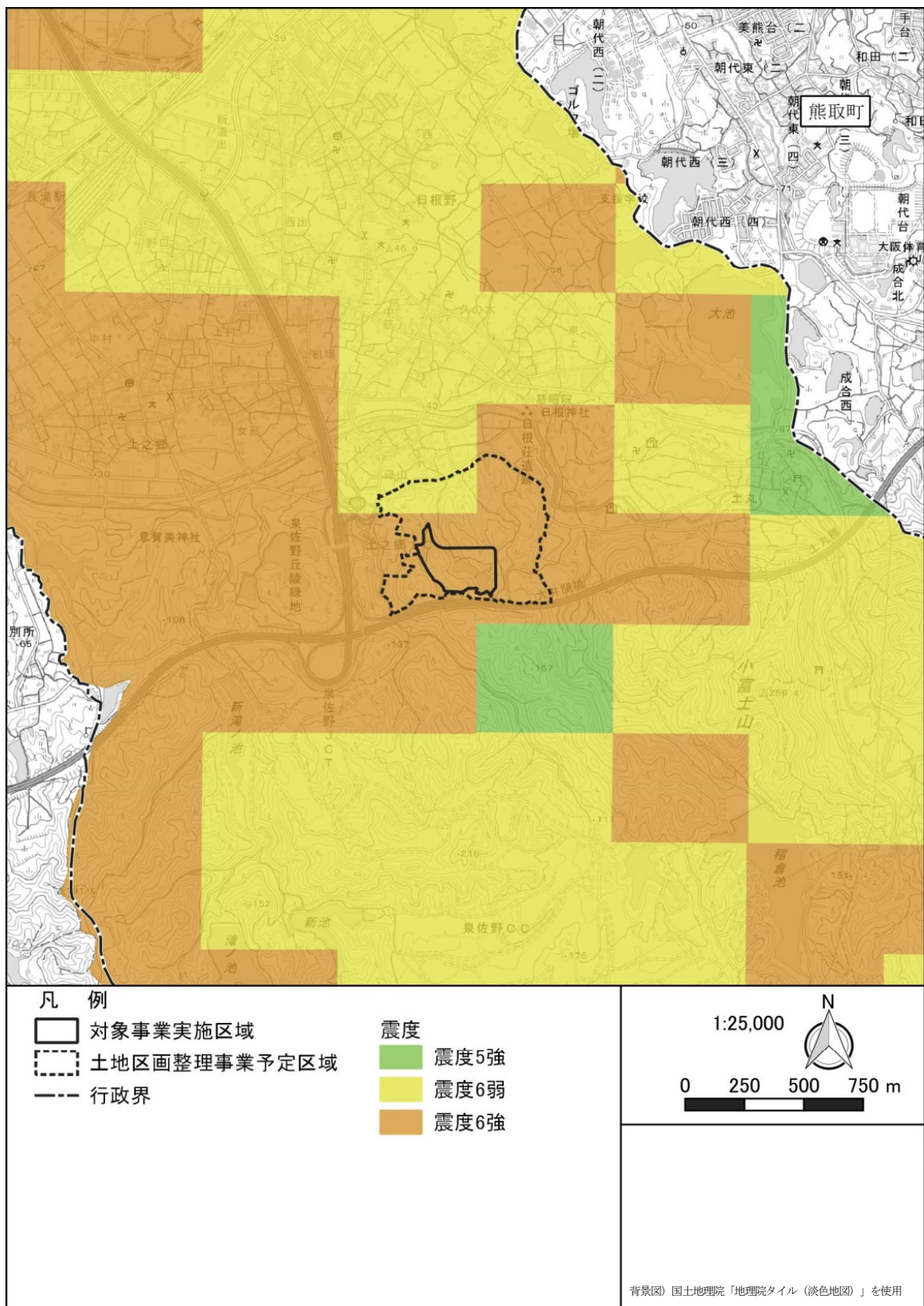
図 4. 5-4 (2) 基準年と将来 (21 世紀末頃) の日平均気温の予測結果
(気候モデル：MRI-ESM2.0)

4. 5. 5 地震

対象事業実施区域周辺は図4. 5－5及び図4. 5－6に示すとおり、南海トラフ巨大地震の震度6弱の地域、中央構造線断層帯地震の震度5強から震度6強の地域として示されており、対象事業実施区域は、南海トラフ大地震の震度6弱の地域、中央構造線断層帯地震の震度6強の地域として示されている。対象事業実施区域の液状化の危険度は、図4. 5－7及び図4. 5－8に示すとおり、南海トラフ巨大地震で危険度なし、中央構造線断層帯地震で危険度なしと一部中程度の地域が示されている。

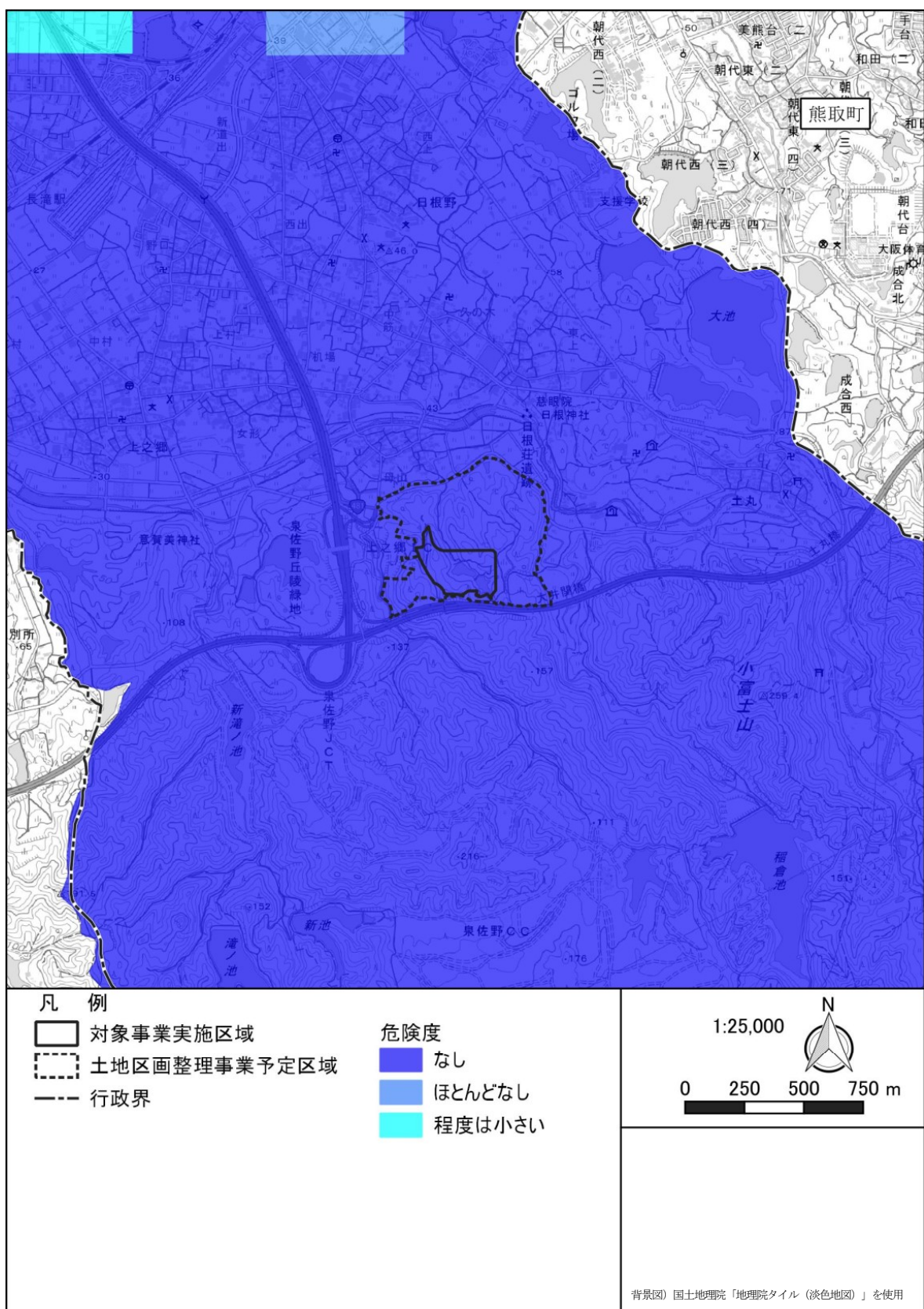
4. 5. 6 津波

対象事業実施区域周辺は海岸沿い等で津波の被害を受ける区域ではない。



出典) 泉佐野市web版ハザードマップ(泉佐野市ホームページ https://www.city.izumisano.lg.jp/section/hazardmap/map.html?lay=saigai_04# 令和6年5月閲覧)より作成

図4. 5-6 対象事業実施区域周辺における地震の状況(中央構造線断層帯地震の予想震度)



出典) 泉佐野市web版ハザードマップ (泉佐野市ホームページ https://www.city.izumisano.lg.jp/section/hazardmap/map.html?lay=saigai_04# 令和6年5月閲覧) より作成

図4. 5-7 対象事業実施区域周辺における地震の状況 (南海トラフ巨大地震の液状化危険度)

